

翻刻 「トリック写真の研究」

〈解題〉

江戸川乱歩が、みずからの活動の記録を集め「貼雑年譜」というスクラップブックを作成したことはよく知られている。その記録のもとになったのが、作家以前の様々な原稿やメモを集めた封筒である。それらは書かれた時期とジャンルから「MOVIE」「EXTRAORDINARY」「ECONOMICS」などと題されている。

そのうち「MOVIE」に入っていたものは以下の五点である。

「写真劇の優越性について」

「トリック写真の研究」

「映画論」

「活動写真のトリックを論ず。」

「トリック分類草稿」（メモ的なもの）

今回紹介するのは「トリック写真の研究」である。

この資料は、活動写真の撮影方法について分類し、記述したものである。原稿冒頭にある「はしがき」の記述によれば、「この一文は大正六年六月に書いたものを、此頃書き直したものです」とある。また、本論の一枚目には、参考とした上野図書館の文献が挙げられていて「大正六年六月にこの論を書いたのだから其後或は新しいものが来てゐるかも知れない」と付け加えられている。そして、「はしがき」が書かれたのは、「大正九年七月」となっている。つまり元になった部分は大正六年六月に作成され、このようなかたちでまとめられたのが、大正九年七月ということになる。

若き日の乱歩、すなわち二十代の平井太郎が、映画とどのようにかかわったか、あるいはかかわろうとしたかについては、以前のいくつかの解説、特に前々号の「活動写真のトリックを論ず。」を紹介した際にも記したので、こちらも参照してほしい。

簡単にまとめると、以下のようなになる。乱歩は早稲田大学を大正五年に卒業し、加藤洋行という貿易会社に勤務するが、六年五月に辞めてしまう。一ヶ月ほど放浪の後、東京に着く。ここで一カ月ほど過ごす、その間、活動写真会社や弁士を訪問している。翌七月には大阪へ呼び戻され

ることになるので、この約一ヶ月間が、映画と強くかかわった期間だったことになる。大阪でセールズをし、鳥羽で造船所に勤務した後、大正八年二月、東京に戻り古書店を開いた。この「三人書房」時代は大正九年十月までで、その間に、映画論をまとめ、映画会社に送るといったことをしている。映画監督見習いとして採用されることを希望したのだが、会社からは何の回答もなかったと「貼雑年譜」にはある。「MOVIE」の袋にある資料は、この際の草稿や複写といったものである。

この「トリック写真の研究」は、前々号で紹介した「活動写真のトリックを論ず。」と重なる部分が多い。「活動写真のトリックを論ず。」は、映画におけるトリックの意義とその分類であった。ここでは、後半部の分類の方は途中から簡条書きになり、説明が書かれていなかった。詳細とまではいかないが、この「トリック写真の研究」ではそれが書かれており、補完するものになっていると言えるだろう。

さて、「トリック写真の研究」の、「はしがき」につづく一枚目冒頭には、「未定稿「活動寫眞の研究」の一節」と

あって、「トリック寫眞の類別につきて」と題された文章になっている。

乱歩はまず、権田、Hulsh、Rathum の、三者の分類をそれぞれ示す。そして、それらの記述が「只並べたといふ様なものに過ぎない」ために、「著者の方では脱漏をきづかぬ様なことがあり、讀者の方では明瞭にトリックといふものをつかむことが難しい」。そしてこれらは「讀みづらい」と批判する。そしてみづからの分類を展開する。

活動写真のトリックを、以下のように大きく四つに分ける。

- (1) 撮影機の把手にある種の変化を加ふるもの
- (2) 撮影機のレンズにある種の変化を加ふるもの
- (3) フィルムにある種の変化を加ふるもの
- (4) 撮影機以外の装置に関するもの

このように「トリック撮影の主たる原因」、つまりどのような方法を用いるかによって大きく分け、さらにそれぞれについて、どういった技法があるのかを示していった。乱歩は主として文献から得たトリックの知識を分類していったようだが、ところどころに自身の経験のようなものを見ることがもできる。

この原稿は最後に「(おはり)」と書かれていて、ひとつの完結した文章として受け取ることができる。しかし「はしがき」に、「長い論文の一節として書いた」とあるように、ここにはトリックの分類と紹介の部分を抜き出したものでもある。トリック撮影や、あるいは活動写真というものについての、乱歩なりの解釈や意味付けといったところには、残念ながら踏み込んでいない。

わずかに末尾に、活動写真の今後の方向性について、谷崎やポーのような「美しく怖ろしいもの」の映像化にはトリックの応用が必要であると述べ、「トリックの進むべき道は、散文詩の方向である」と結んでいるところに、乱歩の考えが見える。

たとえば谷崎潤一郎の「活動写真の現在と将来」という文章は「新小説」大正六年八月号の掲載であり、他にも活動写真についての文章をいくつも発表していた時期であるから、乱歩がこういったものを強く意識していたであろうことがうかがわれる。

このように、乱歩のトリック分類への情熱はその作家としての出発以前までさかのぼることができるのであった。

古今東西の探偵小説をまとめた手製の本『奇譚』が作成さ

れたのが大正四年ごろである。つまり、探偵小説への興味とほぼ並行して、映像のトリックへの興味が存在しており、これがはるか後の探偵小説のトリック分類へとつながっていることがわかる。現存する乱歩資料の中で、探偵小説のトリック分類の最も古いものはおそらく「欺瞞系譚」と題された表で、昭和二十三年八月の作成である。探偵小説のトリックを映画の撮影方法のように分類するという発想は、すでに大正期からあったものなのか、あるいは、ある時期に若き日の原稿を整理しているなかで着想を得たものなのか。小説作品への影響なども合わせて、検討する価値のある問題ではないかと思う。

落合 教幸

(立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター学術調査員)

トリック寫眞の何れ

二の一文は大正六年六月に書いたものを、此頃書き直した
 ものですが、以前に書いた時以來少しも活動寫眞に関する
 書物を讀んで居ないので、殆ど元のまゝです。
 昔から私は活動寫眞には興味を持つてゐたのですが、こ
 れを書くまでに熱心になつた直接の動機は Münsterberg の
 "Photoplay, a psychological study" を讀んで活動寫眞の審
 美的価値を教えられ「てか」たことです。
 撮影の實際については、撮影場を一度のぞいたこともない
 程暗い□ですから、この文にも色々思違ひがあること、思
 ひますが、そつちふ訳ですから御諒察下さい。
 文章には少しも■かまはず書きはなしましたので、御讀み
 づらいでしやうが、不悪。
 これは活動寫眞のあらゆる事項を包括した長い論文の一節
 として書いた「も」のです。
 大正九年七月

平井太郎 識

10 20 平井太郎

「」消してある部分
 ■ぬりつぶしてある文字
 □判読できなかった文字
 一一挿入部分

トリック寫眞の研究

はしがき

この一文は大正六年六月に書いたものを、此頃書き直した
 ものですが、以前に書いた時以來少しも活動寫眞に関する
 書物を讀んで居ないので、殆ど元のまゝです。

昔から私は活動寫眞には興味を持つてゐたのですが、こ
 れを書くまでに熱心になつた直接の動機は Münsterberg の
 "Photoplay, a psychological study" を讀んで活動寫眞の審
 美的価値を教えられ「てか」たことです。

撮影の實際については、撮影場を一度のぞいたこともない
 程暗い□ですから、この文にも色々思違ひがあること、思
 ひますが、そつちふ訳ですから御諒察下さい。

文章には少しも■かまはず書きはなしましたので、御讀み
 づらいでしやうが、不悪。

これは活動寫眞のあらゆる事項を包括した長い論文の一節
 として書いた「も」のです。

大正九年七月

平井太郎 識

未定稿「活動寫眞の研究」の一節

トリック寫眞の類別にうつきて
トリック寫眞は舞台劇と寫眞劇との差別に關
し、可也重要な一要素である。随つて是に就
いて研究すべき方面は色々ある筈である。
凡て、他の研究は後日に譲つてこゝにはトリ
ック寫眞の類別にづいてだけ論ずることにする。
若しも活動寫眞等とトリックをもちかへ立する
ものとして、たゞ、トリックの分類といふことも可
也、大なる仕事に相違ない。

論を進めるに先だつて、私の参考にした類
書を掲げて置かう。不幸にして野の図書館
には活動寫眞に關し、和書三冊、洋書八冊だけ
げしかない。その内この論に参考とし得たもの
は次の數書である。(大正六年五月にこの論
を書いたの初め、其後或は新しいものか来し
るかも知れない。)

- 1. Oswald S. Hulfish, Motion Picture Works.
- 2. Ernest A. Dench, Making the Movies.
- 3. John B. Rathbun, Motion Picture Making.

10 26 幸平洋行藏

未定稿「活動寫眞の研究」の一節

トリック寫眞の類別につきて
トリック寫眞は舞台劇と寫眞劇との差別に關して可也重
要な一要素である。随つて是に就いて研究するべき方面
は色々ある筈である。

凡ての他の研究は後日に譲つてこゝにはトリック寫眞の類
別についてだけ論ずることにする。若しも活動寫眞学とい
ふ様なものが成立するものとしたら、トリックの分類とい
ふことも可也「要」一重、大なる仕事に相違ない。

論を進めるに先だつて、私の参考にした類書を掲げて置
かう。不幸にして上野の図書館には活動寫眞に關して和書
三冊、洋書八冊だけしかない。その内この論に参考とし得
たものは次の數書である。(大正六年六月にこの論を書い
たのだから其後或は新しいものが来てゐるかも知れない。)

1. David S. Hulfish, Motion Picture Work.
2. Ernest A. Dench, Making the Movies.
3. John B. Rathbun, Motion Picture Making & Exhibiting.
4. Frederic A. Talbot, Moving Pictures.
5. 権田保之助、活動寫眞の原理及應用

さて、これらの書物のトリックに關する部分を見るの
に、皆余りその分類方法に關しては注意が拂はれてゐない。

4	Abelting.								
4	Frederick H. Talbot	Photography							
5	権田保三郎	流転寫眞の管理及應用							
6	「こゝろ」	「こゝろ」の書籍のトリックに関する部							
		分を見るときは、或る方の分類方法に關して							
		は注意が拂はれてゐない。僅かに分類のあや							
		かりを正めてゐるのは、権田氏、Talbot、							
		Rathbunの三著である。試みはそれを引記し							
		て見る。							
		権田氏の分類 (氏はトリックを欺騙寫眞と記し							
		こゝろに於ける)							
(A)	撮影中断法	(B) 俯瞰撮影法							
(C)	重複結合法	(D) 緩漫撮影法							
(E)	逆行撮影法								
2	権田氏の分類								
(A)	Reversals	(B) Speed pictures							
(C)	Dummies	(D) Ghosts, Diaphragm							
(E)	Dissolving views	(F) Double Printing							
(G)	Double exposures	(H) Mirrors							
(I)	Black room	(J) Stop pictures							
3	Rathbun 氏の分類								
(A)	By periodical starting & stopping the camera								
(B)	By reversing the routine on certain portions of the film								
(C)	By making two superimposed impressions on a single camera								
(D)	By substituting small scale model								

1036 参考書籍

僅かに分類のおもかげを止めてゐるのは、権田氏、Hulfish, Rathbunの三著である。■ 試みにそれを列記して見る。

1、権田氏の分類、(氏はトリックを欺騙寫眞と記して居られる)

- (A) 撮影中断法
- (B) 俯瞰撮影法
- (C) 重複結合法
- (D) 緩漫撮影法
- (E) 逆行撮影法

2、Hulfish 氏の分類

- (A) Reversals
- (B) Speed pictures
- (C) Dummies
- (D) Ghosts, Diaphragm
- (E) Dissolving views
- (F) Double Printing
- (G) Double exposures
- (H) Mirrors
- (I) Black room
- (J) Stop pictures

3、Rathbun 氏の分類

- (A) By periodical starting & stopping the camera
- (B) By reversing the routine on certain portions of the film
- (C) By making two superimposed impressions on a single camera
- (D) By substituting small scale model

(A)	By participating in a thing & adopting the same view.
(B)	By mentioning the names in certain portions of the film.
(C)	By making the suspended impression on a single camera.
(D)	By substituting small scale models.
(E)	Black room
(F)	Mirrors

二の極に極めて非論理的な、只並べたといふ

小 抑るものは出来ない。こんな風に知つて抑るものを唯だ秩序もなく並べる記述にはある時は著者の方では脱漏を気づかぬ様なことがある。讀者の方では明瞭にトリックといふものをつかむことが難しい。その証據には、上記の三つの分類を比較して見ると、一方に記されて居て、一方に記されな居ない様なものが直ぐ見つかるのである。何よりも、こう云ふ風に雑然と書かれた書物は讀みづらい。私がトリックの分類といふ様なことを考へ出したのもこれらの書物の讀みづらさに刺戟せられたからである。

私は、トリックを分類するには、トリック撮影の主たる原因となるものを標準にするがよいと思ふ。即ち(1)撮影機の把手にある種の変化を加ふるもの、(2)撮影機のレンズにある種の変化を加ふるもの、(3)フィルムにある種の変化を加ふるもの、(4)撮影機以外の装置に関するもの、この四つに大別するのが適當だと思ふ。そして是を細別すること次の如くである。

(一) 撮影機の把手に関するもの、
 (1) 回轉を遅緩ならしむるもの、

10 20 著者 手塚 龍雄

この手の書物の読みからさに新装せしめたか
らである。

カメラ、フィルムを交換するには、フィルム、撮影
の正なる位置とあるものを標準にするかよ
く
と
思ふ。即ち(1)撮影機の把手にある種の變化
を加ふるもの(2)撮影機のレバーにある種の變化
を加ふるもの(3)フィルムにある種の變化を加
ふるもの(4)撮影機以外の装置に用するもの、
この四つに大別するの如きであると思ふ。ま
た、
こ
を
細
別
す
る
こ
と
吹
の
如
く
あ
る。

(一) 撮影機の把手に關するもの

(1) 回轉を速くするもの、	(2) 回轉を遅くするもの、	(3) 回轉を中断するもの、	(A) 突然の出現又は消滅	(B) 代用物の置き換え	(C) 一画面又は数画面毎に中断を行ふもの、	(4) 回轉を逆にするもの、	(A) 下降を昇騰とするもの、	(B) 前進を逆行とするもの、
----------------	----------------	----------------	---------------	--------------	------------------------	----------------	-----------------	-----------------

10 20 金手屋製

- (2) 回轉を迅速ならしむるもの、
- (3) 回轉を中断するもの、

- (A) 突然の出現又は消滅
- (B) 代用物の置き換え、

- (C) 一画面又は数画面毎に中断を行ふもの、
- (4) 回轉を逆にするもの、

- (A) 下降を昇騰とするもの、
- (B) 前進を逆行とするもの、
- (C) 破壊を建設とするもの、

(二) 撮影機のレンズに關するもの、

- (1) 俯瞰して撮影するもの、

- (A) 空中、(B) 水中、(C) 建物、

- (2) 動搖せしめ乍ら撮影するもの、
- (3) カメラを回轉せしむるもの、
- (4) 焦点を移動せしむるもの、

- (5) Rising and falling lens の應用

- (6) 不思議レンズの應用、

(三) フィールドに關するもの、

- (1) 二重露出或は二重焼付、
- (A) 単純なる二重露出、

- (B) Diaphragm

	(C) 破壊を建設とするもの
	(二) 撮影機のレンズに關するもの
	(1) 宿願して撮影するもの
	(A) 空中、(B) 水中、(C) 建物
	(2) 動機せしめ自ら撮影するもの
	(3) カメラを回轉せしめるもの
	(4) 焦点を調節せしめるもの
	(5) <i>Rising and falling lens</i> の標用
	(6) 不思議レンズの應用
	(三) フレームに關するもの
	(1) 二重露光或は二重漂白
	(4) 片断ある二重露光
	(3) <i>Wachstagen</i>
	(5) <i>Wachstagen</i>
	(6) 一人二役
	(2) 一定の間隔を置きてフィルムを切断するもの
	(三) 雨、電
	(四) 撮影以外の装置に關するもの
	(1) 鏡の利用

10 20 巻手原裝

(C) Dissolving views

(D) 一人二役

(2) 一定の間隔を置きてフィルムを切断するもの、

(3) 雨、電、

(四) 撮影「機」以外の装置に關するもの

(1) 鏡の利用、

(2) 暗室の利用、

(3) 代用品の使用、

(4) 線條の利用、

(5) 溶解寫眞、

(6) 月、その他

唯斯様に列記した計りでは、私の云はんとする処が徹底しない。以下少しく細説する。

(一) 撮影機の把手に關するもの、

これは撮影機の把手の回轉の遅速、中断及び逆行によつて生ずるトリックである。

(1) 把手の回轉を遅くして生ずるトリック。これは権田氏の所謂、緩漫撮影法、英語の *Speed pictures* に當るものである。把手の回轉を遅からしめるのは即ち一定時に於けるフィルム面の露出「度数」を少くする所以で、その結果は映寫の際、映画面の活動体の速度が不自然に早くな

(2) 簡室の利用、	(6) 月、その他	唯、新機に引越した計りには、前の三本んと する処が徹底しない。以下おしく細説する。
(3) 代用品の使用、	(5) 活解寫眞	(一) 撮影機の把手に開するもの、 こゝは撮影機の把手の回轉の速度、中断及び 逆轉のようして生ずるトリクシーがある。
(4) 鏡像の利用、		(1) 把手の回轉を速くして生ずるトリクシー。これ は種田氏の所謂、緩慢撮影法、英法の名義 で、 <u>逆轉</u> に在るものである。把手の回轉を速 くし、 <u>逆轉</u> の速度を一瞬間に於けるに、 <u>逆轉</u> 面の露出を大きくする所以で、その結果は眼 寫の際、映画面の液、動筆の速度が不自然に 早くする。洗刷物、追駈け物に於て、すべ た急行列車の屋根から屋根へ飛び移ると いふ様を、場面は多くこの方法に於て、 <u>前例</u> 二の種の撮影に於て、 <u>逆寫</u> すべきは、 <u>前例</u>

10 20 幸手屋敷

る。活劇物、追駈け物に於て、すれ違ふ急行列車の屋根から屋根へ飛び移るといふ様な場面は多くこの方法によつてゐる。この種の撮影に於て注意すべきは、前例「二」で二云へば、列車の屋根を走る人の足並である。映画面では遅々として進んでゐる列車が急行列車になるのだから、その屋根を走る様に見える為にはユックリ飛び歩かなければならぬ。多くは一秒間に幾「十一」足といふ様な怪速度で走つて居る映画になつてゐるが、これは是非注意しなければならぬ。も一つは、この方法を用ゐる時はフィルム露出時間が長くなるので明暗の度が「非常に」ハッキリ過ぎて、人物の顔や服装などが、眞黒に寫つてしまふといふ様な失敗を演ずることがある。私は外國物でこんな寫眞を臆面もなく賣出してゐるのを見たことがある。

喜劇物にはこの方法が可也頻繁に應用せられる。見る間に朝日が昇つたり、夕日が沈んだりする寫眞を見るが、あれもこの方法によつたものである。もつとひどいのは、種を播いて、芽が出て、花が咲いて、實を結ぶまでを十分位で見せる寫眞がある。あれ等はこの方法を極度に應用したものである。一方に於て、砲彈の飛んでゐるのや、昆虫の羽根の活動などを撮影する装置がある

言一は	列車の屋根を走る人の正並である。
映画面	は歴々として進んでゐる列車の急
行列車	に走るの音が、その屋根を走る板
に曳ける	ものはスクリューが床を滑らせ
らぬ。	多くは一列向に急進して、小旗を
引いて	走つて、水も映画は、あるてみるか、
は是れ	注意して、百十十のうぬ。も一つは二
の方	七用、ある時は、その窓、時間、長さ
く	するの、明暗の夜、非情、ト、ト、ト、ト
と、	人物の顔、服、髪、とか、暗黒、に、写つてし
き	りといふ、顔を、手、足を、映さるゝこと、加ふる。
利は	外國物、で、人、を、喜、び、を、懐、か、く、愛、お
し	て、見るの、見、た、と、か、ある。
喜劇物	には、その、が、法、が、才、世、類、類、に、種、用、せ、ら
れ	る。
見る	間、に、喜、劇、か、果、つ、け、り、女、目、か、沢、ん、け、り
する	喜劇、を見る、か、あ、れ、も、二、の、が、法、に、よ、う、た
もの	である。あつと、ひ、ひ、い、の、法、種、を、播、い
て、	喜、あ、あ、て、花、か、笑、い、て、喜、び、を、流、ぶ、ま、て
を	十分、位、に、見、せる、喜、劇、か、ある。あ、れ、喜、ば、て

10 20 喜劇屋敷

かと思ふと、一方にはその正反對のこんなものもある。活動寫眞の利用範圍の広いことが思はれる。

日本で出来た寫眞劇殊に旧劇物は、多少ともこの緩漫撮影法の色彩を帯びてゐないものはない。短いフィルムに多量の筋を盛りやうとする為でもあらうが、大英雄のチヨコ、走りや、立派な御座敷を、煙草盆をさ、げた小間使の駆け足などは寫眞劇を侮蔑するの甚しいものと思ふ。何も長くて複雑だからよい劇とは限らぬ。寧ろ我々は短くてもゆつたりした藝術味の深いものを喜ぶ。

又時と所によつては、例えば正月三ヶ日浅草の活動小屋などに於ては、外國の名作などでも馬鹿に動きの早いのである。これはトリック式撮影の結果ではなくて、映寫時の回轉が早いのである。営業政策上から来るのではあらうが、実に感心しない。ある時私は浅草のある小屋で、外人のすぐ後へ腰掛けて見てゐたことがある。その外人は説明の字幕が出ると、大急ぎで声を出して読み始めるのだが、例の早回しの時だったので、大抵半分位讀むとパツと消えて了ふ。出る字幕も、出る字幕もその通りで、飛んだ舞台外の喜劇を見せられたことがあつたが、外人にさへ讀めない様な早さで字幕を出す位なら、一層全然出さない方が気が利いてゐるとつくづく思ったことだ。

の方、（？）に應用したものである。一方
 は、（？）の飛んでいるのや、昆虫の羽
 根の活動の影を撮影する装置があるかと
 思ふ。一方には、その正交射の二入射の
 る。この装置の斜射範囲の広いことか
 ら、（？）の
 日本では、（？）の旧創物は、（？）
 もこの装置撮影法の色彩を帯びてゐる
 のは、（？）の、（？）の、（？）
 する為にも、（？）の、（？）
 リヤ、（？）の、（？）の、（？）
 の、（？）の、（？）の、（？）
 事、（？）の、（？）の、（？）
 よ、（？）の、（？）の、（？）
 フ、（？）の、（？）の、（？）
 又、（？）の、（？）の、（？）
 酒、（？）の、（？）の、（？）
 有、（？）の、（？）の、（？）
 は、（？）の、（？）の、（？）
 回、（？）の、（？）の、（？）

10 20 全手原

(2) 把手の回轉を早くして生ずるトリック。ある滑稽物で、喧嘩をひどくノロノロやつてゐる。背負投げをくつた男の足が天に沖してから地面につく迄に余程の時間がかゝる。少くとも普通空間に於ける落体の速度の倍はかゝると云ふ様なのを見たことがある。これは撮影の際一定時に於けるフィルム露出度数を「大」多くして映画面の活動を緩漫ならしむる方法である。この方法は天然色寫眞や昆虫の活動を映す研究寫眞などにはなくてはぬものであるが、劇として應用の余地は広くない。それに、如何に精巧な機械の發明があつたとは云へ、一定時に於けるフィルム露出度数には際限のあるもので、逆も緩漫撮影法の様に自由には行かぬ。

(3) 回轉の中断によつて生ずるトリック。権田氏の所謂撮影中断法で、英語の stop picture stop motion に當る。即ち撮影の際、一時撮影を中止して、被撮影物にある変化を加へた上更らに撮影を繼續して、映寫の際には觀衆をして一箇連續せる活動の如き幻覺を生ぜしむる方法である。

この中断的トリックを極めて広義に解釈する時は、普通の活動寫眞其物も亦一種のトリックだといふことになる。一フィルム面から次のフィルム面の間には、明かに中断

ので、たあ、りか、果に感心しない。ある時
 私に浅草のある小堂に、外人のすぐ後へ腰
 掛かして見せぬと加ふる。その外人は親
 明の字幕がある、太息の聲を聞いて親
 み始めの所か、例の字幕の所か、たの
 び、大抵半分位讀ふと、パワと消えしるふ。
 ある字幕も、ある字幕もその通り、外人
 が、外人の裏側を見せよと、たこと加あつた
 か、外人は顔めぬい、煙を早さで字幕を
 出す位を、一席を終りさうい、方が氣が利
 い、こまるとつく、思うたことだ。
 ② 把手の回轉を早くして生あるト、ある
清き影や、喧嘩をひひく、口く、やつ、しぬ
る。背負枝をくつた、男の足か天に沖して
かう地面につく、足に屏障の時間、的か、る。
かくとも、舞臺の面に於ける、花の運転の信
ばか、るとも、原の見え、こまると加ふる。
三分、撮影の時間、一定、時に於ける、手に露出
した影を、太多くして、映影の流動を、淺く、ら
しめる、方がある。この方、天は短く、高く、

10 20 幸手撮影

がある。この中断が網膜の残像「現象」作用によって隠れる訳である。(これは残像作用によるのでないといふ説もあるが、茲には通説に従つて置く)つまり活動寫真とトリック即ち欺くといふこと、は切つても切れぬ深い関係のあることが分る。

この撮影中断の方法は、中断中に加ふる一變化の性質によつて三つに別けることが出来る。

- (A) 突然の出現或は消滅。撮影中断中に人物又は小道具その他を撮影面から取り除き或は差加へることによつて生ずるトリックである。地獄の鬼が煙と共に消え失せたり、天使が突然現はれたりするのはこれであるが、多くは後に述べる二重露出法「によつて」を併用する。
- 「場合」化物屋敷の寫真で、ドアが突「然」に壁に変わったりするにはこの方法が適當である。役者が表情のvarietyにこの方法を利用して化粧を仕直すなどはよい事だと思ふ。例えば断末魔の苦しみで、徐々に顔色の憔悴して行く所などを寫すにはこれがよいと思ふ。

(B) 代用物の置換え。英語の所謂、Dummies, stop and substitution action, substitution trick などに相当する。文字通りの意味で代用物を置換える方法である。追撃の末勢込んで掴みか、つて見れば、当の對手「の」と

中絶中の映動を映す研究富澤等のにはなく
 二つはあつたのであるが、初として應用の第
 二は六つある。それは、如何に精巧な機械
 の發明があつたとはいへ、一室時に於ける
 フォトリソグラフィに制限のあるもので、中
 絶後露光影の様に自由には行かぬ。
 ③ 圓盤の中絶は、生あるトナリ。権田の
 の所謂撮影中絶法で、英映の *stop picture*
stop motion である。即ち撮影の際一時露
 光を中止して、被撮影物にある変化をかん
 ち上更うに撮影を繼續して、映寫の際には
 観衆をして一箇連續せる映動の如き幻覺を
 生ぜしめる方法である。
 二の中絶的トナリを極めて云蓋に解釈する
 時は、普通の映動寫眞其物も第一種のもの
 と同じといふことである。一ツは二面から次
 の及べし面の間に、明かに中絶がある。
 この中絶が個體の残像現象作用によつて隠
 れてゐる。(それは残像作用に於いてい
 は後述であるが、茲には置いて置く)

二卷 第五回

つまり映動寫眞とトナリ即ち映くといふ二
 どい切つても切れぬ強い関係のあること
 が分る。
 二の撮影中絶の方法は、中絶中に加ふる変化
 の程度はおつて三つに別けることかある。
 (A) 突然の出現或は浮滅。撮影中絶中に人物
 又は山道具その他を撮影面から取り除き
 或は差加入るとによつて生ずるトナリ
 である。地獄の怨火煙と云は消え失せたり
 たり、天使が突然現はれたりするの如き
 であるが、多くは後述する二重露光法
 作りのトナリを併用する。攝像化物理數の寫眞
 は、トナリが突然壁に著つたりするのには
 この方法が適である。後者が表攝の鏡
 リ目にはこの方法を判用して化粧を仕直す
 等のほんまい事かと思ふ。例へば新曲魔の
 幕一及び 徐々には顔色の増進して行く所
 などを寫すに於てこれかよいと思ふ。
 (B) 代用物の置換え。英映の所謂 *deceit*
stop and substitution action, *substitution*

二卷 第五回

代用物を選擇する。文字通り「の」の音で
 映カムに「摺」の、つて見れば、兩の対手
 ぬと「摺」の、帽子と服計り、藻抜け
 の空所つたりするのばよく滑稽物にある。
 劇に於ては主として危険な人
 力以上のはなれ業を演ずる際に用ゐられる。一例を上
 ぐれば、幾十丈の断崖を轉落する所などは實際の人と
 人形との巧みな置換えに外ならぬ。この方法は最も
 應用の範囲が広いもので「あるが」、こゝに一々枚挙
 するの違はない。
 この(A)(B)共に hold it, freeze, stop 我國の所謂「極つ
 て下さい」の嚴重に守られる事が最も必要である。
 (C) 一面又は數画面毎に中断を行ひ主として被撮影物の
 位置、形状を變ずる方法。所謂 one turn one picture
 principle である。この方法の主たる目的及効果は無生
 物が自から活動するが如き「幼」幻覺を興へる点に在
 る。
 指物師の部屋が現れる。鋸がノコノコやって来て其所
 にある板を切り始める。錐がやって来て穴をもむ、釘
 がその穴に足を入れる。金槌「に」一が「飛んで来て
 その釘の頭を打つ。化物屋敷の様な滑稽な一幕が演じ
 られる。トリックの秘密を知つて居ても面白いもので
 ある。これは後に述ぶる線條利用法と併用せられる場
 合もある。
 (A) 所謂「極つて下さい」の嚴重に守られ、一例を
 上ぐれば、幾十丈の断崖を轉落する所など
 といふ實際の人物と人形との巧みな置換えに
 外ならぬ。この方法は最も應用の範圍が
 広い。
 (B) 一面又は數画面毎に中断を行ひ主として被撮影物の
 位置、形状を變ずる方法。所謂 one turn one picture
 principle である。この方法の主たる目的及効果は無生
 物が自から活動するが如き「幼」幻覺を興へる点に在
 る。
 (C) 一面又は數画面毎に中断を行ひ主として被撮影物の
 位置、形状を變ずる方法。所謂 one turn one picture
 principle である。この方法の主たる目的及効果は無生
 物が自から活動するが如き「幼」幻覺を興へる点に在
 る。
 11 26 半平屋敷

る影に在る。
 指物師の部屋が現れる。鏡がノコノコヤ
 フと来て其所に有る様子を切り取る。鏡
 がやつと去り穴をもち、釘がその穴に生
 を入れる。金槌が飛んできてその釘の頭
 を打つ。化粧屋の顔を滑る第一幕の演
 じもする。トナリウの秘密を知りて厭も
 面白くものがある。それ以後は進む鏡
 像利用法と採用せしめる様も有る。
 今一つは、黒い背景に白の単純なる形で
 影画風に人や動物の姿を映動させる所謂
 silhouette trick である。それは欧米英國
 の C. Armstrong 氏が作り出した。幕の後
 で人間が芝居をしてその影を見せる。彼
 の代りに人形を使う。芝居は一たのてあ
 る。當時それを商業上の手段に利用す
 ること加可也盛んである。瓦相である。
 それから進んで今日の線画寫眞、凸坊
 漫画帳等。そのみある下り。三つハ

10 26 幸三郎

今一つは、黒い背景に白の単純なる形で影画風に人や動物などを活動させる所謂 silhouette trick である。これは始め英國の C. Armstrong 氏が「アメリカなどで」幕の後で人間が芝居をしてその影を見せる、彼の shadowgraph play から思ひついて、人間の代りに人形を使つて寫眞にしたのである。当時これを商「賣」業上の広告に利用することが可也盛んであった相である。これから進歩して今日の線画寫眞、凸坊漫画帳なるものが出来たらしい。こういうものが出来た現在と、活動寫眞一が「發明」せられた時代「の当初」とを比較するのは面白い。一八三三年 Horner 氏が手で描いた wheel of life (Zoetrope) が活動寫眞の元祖らしいが、あの時代にあつては、「動く」画から眞個の動く寫眞に進むのが進歩であつた。そして、一八七七年 Muybridge 氏が馬の走る所を活動寫眞にしたのが大きな手柄であつた。ところがその後觀衆が動く自然にあき出すと、今度は逆に動く寫眞から、動く画に行くのが進歩になつて来た。線画寫眞の發達は、「歴史は繰り返す」といふ様なことを感じさせる。

所謂凸坊漫画帳にも製作法によつて二派がある。一つは背景その他全画面を一々書いて、活動すべきケ

此の如き素直な現と、次動寫眞の
 基料とを区別するのには面白い。一八三三
 年 Henry 氏が手描いた *Sketch of Life*
 (The Actor) 如き動寫眞の先祖らしいが、
 あの體裁はあうては、（？）かゝる個の動く
 寫眞に在るの如き素直であつた。さうして、
 一八七七年 *May's Life* 氏が馬の足す所
 を後動寫眞にいたのが大きな手柄であつ
 た。ところかゝる後觀家か動く自然にあ
 き出すと、今なほ逆に動く寫眞から、動
 く画にゆくのが在るにあらうと云ふ。線画
 寫眞の發達は、たゞは轉り返すと云ふ程
 五マとを感ぜさせる。
 所謂凸版畫像は、其の觀法にあらうと三派
 がある。一つは指墨その他全面一面畫
 いし、流動するべき所だけあつた、形
 描き裏へて行く方法で、他は、背景は既
 成の裏の一枚の画を用ゐ、人や動物の画
 を切抜いて其上に置き、動くべき個所
 にはそれを加へて行く方法である。後者

10 20 半手寫眞

所丈け少しづつ、形を描き変へて行く方法で、他は、背
 景は終始不變の一枚の画を用ゐ、人や動物の画を切抜
 いて其上に置き、動くべき個所丈けに変化を加へて行
 く方法である。後者は非常に手数が省ける方法に相違
 ないが出来上りは到底前者の様に手綺麗には行かぬ。
 ポンチ画といふものは動かさずとも可也面白いものであ
 る。共に動かぬ場合で比較すれば、チャーター、チャッ
 プリンが如何に滑稽な態度を示してゐても、一枚の上
 手に描かれたポンチ画の滑稽味に勝ることは出来ない
 であらう。この点から見ても、ポンチ画の活動寫眞は
 利用の仕様によつては相当將來のあるものであらう。
 (4) 把手の逆回轉によつて生ずるトリック。権田氏の逆行撮
 影法、英語の *Reversal* に相当する。撮影時にフィルム
 を逆に回轉せしめて出来た映画を、映寫時に正式に回轉
 することによつて生ずるトリックである。これは必ずし
 も把手を逆轉しなくとも、焼付の際の手續、カメラの装
 置等によつて把手に関係なく出来上るものもある。然し
 その理窟は同様である。應用の方法が三通りある。
 (A) 下降を昇騰とするもの、又はその「返」「反」対。滑
 稽寫眞や、日本の忍術寫眞によくある非常に高い所へ
 飛び上るはなれ業は、飛びおりの所を逆に寫したもの

一 非非常の車數か看せる方には相違ないか
 出ま上りは到底前者の様に手續繁には行
 かぬ。
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

④ 把車の逆回転によつて生ずるトルク。權田
 氏の逆車攝影法、英訳の「逆車」に相違す
 る。撮影時に「逆」に回転せしめて出
 来る映画を、映寫時に正式に回転すること
 によつて生ずるトルクをいふ。これは必
 ず把車を逆回転しなくとも、煙筒の端の平
 續、カメラの装置等によつて把車に關係す
 く出来上るものもある。然しその理窟は同
 稱である。應用の方法が三通りある。

10 20 李千屈製

である。その反対の例は、日本の怪談物などで見る。
 広がつてゐる煙が一点に吸ひ込まれる様に消える寫眞
 も同様にこの方法によつたものである。鞠が坂道を自
 りで上つて行つて開いた窓へ飛び込むといふ様なの
 もこのトリックである。これなどは前述の中断による
 ものと間違ひ易い。

(B) 前進を逆行とするもの、又はその反対。■ 巧妙な一例
 がある。汽車の線路に一人の女が縛つたま、横へられ
 た。汽車は驍馳にやつて来る。一人の男が走つて来て
 將に汽車の救助網に触れんとしてゐる女を助ける。若
 しこれを本当にやれば極めて危い仕事である。この寫
 眞のマネージャーが採つた方法はかうである。先づ男
 が縛られた女を抱いて、急ぎ足にあとじさりをしなが
 ら線路の上に遣つて来て、大急ぎで女を線路に横へて、
 矢張りあとじさりをして去る。その女の横はつた鼻の
 先には黒煙を吐いて汽鐘車が一寸と隔てずに止「ま」つ
 てゐる。合図と共にその汽車は全速で背進を始める。
 ■ これを逆回転法で撮影したものであつた。正式の活
 動をこの方法で撮影すれば滑稽寫眞が出来、間違つた
 活動を撮影すれば正式のものが出来る。これがトリッ
 クの妙所である。

(A) 下階を景としてするもの、又はその反対。
 階上を景としてするもの、又はその反対。
 相席に真の所へ飛び上るはるゝ業は、花
 ひありて所を逆に見るはるゝ業は、そ
 の反対の例は、日本の煙草をむむ見る。
 松かつしめる煙か一点ははるゝ業は、花
 はるゝ業は、花か一点ははるゝ業は、花
 ものである。鞍の坂道を自らむむ上つて
 行つてぬい、花か一点ははるゝ業は、花
 も二のトクケである。それらのはるゝ業は、花

(B) 前進を逆としてするもの、又はその反対。
 花か一点ははるゝ業は、花
 の女か縛う花か、花か一点ははるゝ業は、花
 馳にやつし来る。一人の男か縛う花か、花
 手に流車の救助網に触れんとするはるゝ業は、花
 を助け。若しそれらに本意にやんか花か、花
 花か一点ははるゝ業は、花
 ヤーの花か縛う花か、花か一点ははるゝ業は、花
 か縛う花か、花か一点ははるゝ業は、花

10 20 半字原稿

(C) 破壊を建設とする。石膏細工が一分間で出来上つたり、

ズタ／＼に切られた果実が元々通りの形になつたりするの、出来上つた石膏細工を打ちこわすのや、果実の皮をむき実をズタ／＼に切るのを逆に撮影したものである。これは多くは一は中断撮影法と併用する必要がある。

(二) 撮影機のレンズに関するもの。

これはレンズの位置、方向の変化、レンズのある運動、及び特殊レンズの利用によつて生ずるトリックである。重なるもの六種を以下に列記する。

(1) 俯瞰して撮影するもの、床を背景として空中から撮影するトリックである。その床に色々の画布を敷いたり装置を施したりしてそれを空中、水中、建物等に見せる。

つまり横のものを縦に見せる仕掛けである。実際縦では非常に困難であつたり又は不可能なことが、横にすれば雑作なく出来るといふ所から思ひつかれたものである。

(A) 空中。魔術寫眞に空中の舞踊といった様なものがあるのはこれである。これは実は□の上に雲だとか月や星だとかを描いた画布を「引」敷いて、その上に裸体の女などが横はつて色々に手足を動かすのである。

(B) 水中。水中を背景とする活動寫眞の撮影法に四種ある。

さうをしないから鏡の^上に置つてまて、
 大急いで女を鏡に横へて、矢張りあと
 いさりをして置く。その女の横はうら真
 の先には煙を吐いて洗車が一寸と隔
 ておに止まうてゐる。金匱と若にその洗
 車は金匱の背後を映る。もこれを逆
 回轉法で撮影したものであつた。正味の
 次第を二の^{方法}で撮影すれば、開鏡時
 出来、開鏡つた次第を撮影すれば正式の
 そのか出来る。それか上りの妙所であ
 る。

(C) 磁環を建設とする。磁環玉が一分留て
 出来上つたり、スリッパに叩くた果實
 が之々通りの形に有るなりするのば、出
 来上つた不實鏡を折るなりするのば、果
 實の皮をむき実をかくくに切るのを逆
 に撮影したものである。それは多く中野
 景撮影法と併用する次第のなる。

(二) 磁環法のレンズに對するもの。
 それをレンズの位置、方向の變化、レンズの

10 20 李半梅

のある^{位置}、及び特殊レンズの^{利用}によつて
 生ずる^{効果}である。重なるもの古種を以下
 に引列する。

(A) 倍映——撮影するもの、床を背景とし
 空中から撮影するものがある。その床に
 色紙の^{裏面}を敷いたう背景を^映りたりして
 それを空中、水中、^鏡物等に^映せる。つま
 り横のものを縦に^映せるに^似たものである。実
 際縦のものは非常に困難であらう又不可^成
 ることか、横にすれば、難儀なく出来るとい
 ふ所から^思ひあつたものである。

(B) 空中。魔舟雲裏に空中の舞踏といつた種
 有るの^かするのば、それは、^鏡の上に
 雲^とか月や星^とかを^映りて、^画布を^映
 裏いて、その上には^標榜の^女る^かか^標ぼう
 の色を^映る^かすの^もある。

(C) 水中。水中を背景とする^水中^の撮影
 法は^画鏡である。第一は^水中^の海面に^映
 活^動する^電光を^映りて^留れるを^寫す^方法
 第二は^大きな^タンクを^掘えして^水を

10 20 李半梅

た、え、その外部心の活動を寫すもの、	第三は、二重露光法によつて、人の動作と	実際の海底とを別々に寫す方法。第四は	二、に述ぶる俯瞰撮影法である。三、は	船上に水中の背景をしつらえて、人物は	その上を横はるのひある。この四種の方	法中凡ての点から云つて第三のものか一	番本物らしく且明瞭に出来上る様に思は	れる。	(C) 建物。非常に高い建物の楕を傳つてかけ	よつたり、煙筒の中部を傳つてかけ上つたり	葺一のほ建物の縦の平面を乳母車をか	してかけ上つたりするのほトリック	である。これはバックが画布であると思はしい出来	栄えは得られぬ。實際床の上に煉瓦を敷いたり、壁	を塗つたりすれば本物に見える。	(2) 撮影機を 動揺せしめながら撮影するもの。船中、飛	行機上等を寫す時に用ゐられる方法である。船中の光景	を寫す場合、その船が航海中であることを暗示する為	は、どうしても觀衆に動揺の感念を與へなければならぬ。	然し■仮令實際の船中で寫す場合でも、動揺は撮影機	にも同時に傳はるのだから、画面には静止状態しか現は	航中のまを寫す場合、その航が航海中
--------------------	---------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	-----	------------------------	----------------------	-------------------	------------------	-------------------------	-------------------------	-----------------	------------------------------	---------------------------	--------------------------	----------------------------	--------------------------	---------------------------	-------------------

10 20 本手撮影

第一は実際の海底に於て強烈な電光を利用して潜水者を寫す方法第二は大きなタンクを拵えてこれに水をた、え、その内部での活動を寫すもの、第三は、二重露光法によつて、人の動作と実際の海底を別々に寫す方法。第四はこ、に述ぶる俯瞰撮影法である。これは床上に水中の背景をしつらえて、人物はその上に横はるのである。この四種の方法中凡ての点から云つて第三のものが一番本物らしく且明瞭に出来上る様に思はれる。

(C) 建物。非常に高い建物の楕を傳つてかけ上つたり、煙筒の中部を傳つて上つたり甚しいのは建物の縦の平面を乳母車をおしてかけ上つたりするのは皆このトリックである。これはバックが画布であると思はしい出来栄えは得られぬ。實際床の上に煉瓦を敷いたり、壁を塗つたりすれば本物に見える。

(2) 撮影機を 動揺せしめながら撮影するもの。船中、飛行機上等を寫す時に用ゐられる方法である。船中の光景を寫す場合、その船が航海中であることを暗示する為には、どうしても觀衆に動揺の感念を與へなければならぬ。然し■仮令實際の船中で寫す場合でも、動揺は撮影機にも同時に傳はるのだから、画面には静止状態しか現は

くることを味あする為には、
 象に動搖の感念を興へずばならぬ。然
 し後夜令室の船中や寫す城やも、動搖
 は撮影にも其の上傳するの妨かり、画面に
 は靜け状態しを現はせぬ。やゝして普通
 實際に船中を便ふことの妨かり、
 影機そのものを動搖せしめ、被撮影物か
 動搖してゐる物に見せざる外はないのである。
 飛行機上の人を寫す場合は、今日も多く
 この場合には、実物も撮影は困難なから、
 更ら二の必要がある。その一、飛行機上
 の人は外気に曝されて居るの妨かり、その
 頭髪や服首の吹かれ風に吹かれて居ること
 とも、凡時は静かなるや小振らぬ。それには
 普通電氣扇を使用する。自動車上の、
 車中の人も、寫す場合は、厚日は多く、
 物が便はせしめる。こゝろの物は隔つて、
 物や花などないのは、その動搖が他のものに
 比して小さく、みかといふ處にある。
 地震を止めるとの方法が創出される。

10 20 半生半報

れぬ。まして普通には實際の船中を使ふことが少ないの
 から、撮影機そのものを動搖せしめて、被撮影物が動搖
 してゐる様に見せる外はないのである。飛行機上の人を
 寫す場合とても同様である。この場合には、実物■撮影
 は困難だから尚更らこの「方法の」必要がある訳だ。そ
 して飛行機上の人は外気に曝されて居るのだから、その
 頭髪や服などが強い風に吹かれて居ることをも同時に示
 さなければならぬ。これには普通電氣扇を使用する。自
 動車上の人、汽車中の人などを寫す場合は、今日は多く
 実物が使はれてゐる。これらの物に限って実物で差支な
 いのに、その動搖が他のものに比して小さく、みだといふ
 点にある。

地震などもこの方法が利用される。

(3) カメラを回轉せしむるもの。これは英國のトリック寫眞
 の始祖とも云ふべき Robert Paul の考案と称せられるも
 ので、ダンサーのグル〜回轉する一といった一様な寫
 眞である。一種の装置によつてカメラを回轉せしめ
 ながら撮影する方法である。私はこう云ふものから図案
 的活動寫眞の存在し得ることを思ふ。昔よくあつたパテ
 あたりの極彩色のダンスの寫眞などは、あれも一種の図
 案的寫眞といふことが■出来るが、更らにトリックの利

(3) カメラを回轉せしめるもの。これは英國の
 トリック寫眞の始祖とも云ふべし。Robert
 O'Connellの考案と稱せしむるものひ、メサ
 アのカメラを回轉する機を考案する。一體
 の装置によつてカメラを回轉せしめながら
 撮影する方がある。利便と云ふ点の
 ら、圓錐的流常寫眞の存在し得ることと見
 ざるよくある。レバテあたりは、色彩の
 の寫眞をば、あつて一種の圓錐的寫眞と
 いふことかきよめるか、更にはトトリック
 用によつて、百花燦爛といつた趣きの、文
 詩を見る様な活動寫眞の可能性を信ずる。
 一カメラの二焦点を移動せしむるもの。これは觀衆の目
 には別に不思議に見えぬ寫眞であるが、撮影法上一種の
 トリックとも云ふことの出来るものである。James
 Williamsonといふ男の作つた“Big Swallow”といふ寫
 眞は一寸有名であるが、それは一人の男が段々前方に進
 んで来て、遂にスクリーン一杯の顔になり、更らに前進
 して、目と鼻と口計りになり、鼻と口計りになり、遂に
 口計りになつて、その口をアングンと開くと、画面は口
 腔の内部をきかせて眞暗になる。そこへその男を寫し
 てゐた寫眞師の小さい身体が寫眞機と共に轉り込むといつ
 た様な寫眞で私は子供の時分見たことがある。これは見
 た目には何んでもない様であるが、撮影技師は大變な苦
 心をする寫眞である。ある距離までは焦点を変えなくて
 も済むが、非常に近寄つて来ると、それからは刻々に焦
 点を変えて行かねば画面がハッキリしないのだから、そ
 の困難は大抵ではない。技師の手腕といふ様な点からこ
 の寫眞は有名になつたこと、思はれる。私はこれから次
 の様なことを聯想する。
 心理学者 シュンスターベルヒ (Photoplay A psychological

10 26 心理学

4、更うは前導し、目と鼻と口計りに
 5、鼻と口計りにする、鼻は口計りにする
 6、その口をアケルと肉くと、画面は口
 7、瞳の内面をきかす、真珠は白く、その内へ
 8、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 9、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 10、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 11、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 12、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 13、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 14、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 15、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 16、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 17、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 18、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 19、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 20、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 21、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 22、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 23、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 24、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 25、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 26、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 27、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 28、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 29、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 30、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 31、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 32、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 33、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 34、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 35、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 36、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 37、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 38、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 39、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 40、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 41、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 42、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 43、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 44、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 45、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 46、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 47、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 48、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 49、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 50、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 51、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 52、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 53、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 54、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 55、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 56、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 57、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 58、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 59、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 60、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 61、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 62、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 63、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 64、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 65、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 66、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 67、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 68、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 69、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 70、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 71、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 72、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 73、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 74、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 75、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 76、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 77、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 78、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 79、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 80、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 81、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 82、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 83、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 84、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 85、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 86、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 87、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 88、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 89、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 90、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 91、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 92、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 93、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 94、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 95、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 96、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 97、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 98、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 99、その口をきかす、真珠は白く、その内へ
 100、その口をきかす、真珠は白く、その内へ

10 20 半手帳

(study) が云つて居る様に大寫しといふものは、藝術としての活動寫眞の偉大なる特徴であるが、その大寫しと同じ効果をこの焦点移動の方法によつても得られ相だと云ふことである。例へば、二人の対話して居る寫眞であれば、大寫しでは一方の人の顔と他方の顔とを交互に大きく寫し出して對話者の顔面表情を明かにし同時に觀衆の觀劇焦点を適当に導くのであるが、これを二人の顔を同時に画面に出して置いて少しの焦点の移動によつて時に一方の顔をハッキリせしめ、時に他方の顔をハッキリせしめるといふ風の技巧が出来ないことではないと思ふのである。この方が觀衆「の」に対して刺戟を与ふることが少くて而かも大寫しと同一の効果が得られると思ふ。大寫しがあまりに頻出する米國寫眞などが不愉快な印象を与えることを思つて見るがい、(こ、に云ふ大寫しとは例へば一人物の顔丈けが画面一杯に現はれる様な最大の大寫しの事である)

(5) Rising and falling lens 高い建物を大寫しにする時などに用ふられる特殊の装置で上下に自由にレンズの方向「の」を「変ずることが出来る様になつてゐる。これはトリックとしては天使の空中を飛んでゐる場面などに用ゐられる

と同じ動きを二の重寫燒付の手法によつて
 も得る。相対と云ふことである。例へば、
 二人の対峙して居る寫眞を撮つた。大寫し
 ては一方の人の顔と他方の顔とを交互に大
 きく寫し出して鑑賞者の顔面を明かに
 し、同時に顔面の調和を美を強調に導くので
 あるか。それを二人の顔を同時に画面に出
 して並置して大しの鑑賞者の移動によつて時
 間をハキリせしめるといふ風の技巧の出来
 ないことではまいと思ふのである。この方
 が觀衆に對して刺激を及ぼすことかやく
 である。大寫しがあるうに種々する場面寫眞
 があるか不愉快な印象を及ぼさるることを寫つて
 見るかいい。こゝにはさういふ寫しとは何れ
 か一人物の顔だけの画面一杯に映はれる程
 度は最大の大寫しの事である。

(5) *Riding and falling down* 馬に乗り物が大寫
 しはする時をば用ふるべき特殊の設置の

10-26 写真研究

(6) 不思議レンズ。普通レンズの外にプリズム様のレンズを装置して、或は長細く、或は横平たく色々の異様な寫眞を作ることが出来る。例へばビヨロ長い夫と、平べったい妻との滑稽寫眞などを作るに適當なトリックである。この外、検微鏡寫眞は極微生物の研究方法として有効であり、ある場合には望遠鏡的の隔大寫眞もとることが出来るし、猶、將門眼鏡の様なものでも利用の余地がないこともなからうと思はれる。

(三) フィルムに関するもの。

撮影中、焼付けの際、或はその後「の」にフィルムに関して特殊の手段を講じて作られるトリックである。記すべきものが三つある。

(1) 二重露出或は二重焼付。

これはフィルムに二つ或は夫れ以上の異なる場面を重ねて寫して種々のトリックを拵へる方法である。

同様の効果を、撮影後の複寫焼付けの場合（或は複寫印刷）に別々のフィルムに寫した異つた二つ或はそれ以上上の場面を重ねて焼付け或は印刷することによつても得られる。前者は英語 *double exposure* に、後者は *double printing* に相当する。権田氏はこれらを重複結合法と稱して居られる。これは複雑の度によつて大体四つ

上下に自由には心の方向を差することか 出来ず、影に陥うてゐる。そればかりと一 つは天使の空中を飛んでゐる場面などは用 ゐらざる。	(6) 不思議し入。重畳の外の外に、ポツポツ 杯のヒツツを空響して、或は在細く、或は 襖手らしく色々の異様な寫眞を作ることもあ る。例へばヒツツは長い木と、平心つたい 妻との滑稽寫眞をいふは適当なトキが ある。	この外、極微鏡寫を逐は極微生體の研究方法と して有効であり、ある場合には望遠鏡的の隔 大寫眞もとることを生ずるし、猶、持門照鏡 の極小のものも抄本の質地であることあるか らとと思ふべき。	(三) フルムに映らるもの。 撮影中、燈台の障、或はその後方にフルム に圍して持珠の半段を保持して作らるるもの クがある。把すべきものか三つある。	(1) 二重露出或は二重透射。
---	--	---	--	-----------------

10 35 半半露出

に分つことが出来る。

(A) 単純なる二重露出。天使だとか、幻だとかが画面中に
朦朧として現はれ、實在のものとはならずしてそのま
、消えて了ふ様な寫眞はこれである。これは一度現実
の場面を撮影した後で、暗室中で天使或は幻にの□光
線を與へて、同一フィルムの適当な箇所へ撮影するの
である。これらの非現実物は、現実の画面に対して非
常に大きくも又小さくも寫すことが出来るのでこのトリッ
クの面「白」味が加はる訳だ。このトリック「製作」
には守るべき三ヶ条がある。そしてこれは後の(B)(C)(D)
にも共通の要件である。

(イ) 非現実物を寫す場所は、現実物中でもないべく、
物の色(例へば明)と反対の色(例へば「黒」暗)
に近き所を択ぶこと。

(ロ) 非現実物と、現実の人物との應對の調子を合は
る為には、二■重露出或は印刷のタイムをよく吟味す
ること。

(ハ) 非現実物が現実物に対して絶えず微動する様な不体
裁を避ける為、特に撮影器の把手回轉による微動
「を」がない様に注意すること。

(B) Diaphragm。我國でシボリと称せられるもの、一種で

それはアムに二つの異なる面を重ねて
 写し、種々のトナリを撮へる方法である。
 円板の知照を、露光後の複寫機台の板を
 (裏面複寫印刷)に別々のアムに寫した
 異なる二つの面を重ねて露光せしめ、印刷
 することにより、二重得らる。前者は単純
 double exposure は後者は double printing
 に相當する。露光機はアムを重複被写体
 と銘して作らる。それは複雑の面によつ
 て大分回つた分つことがある。

(A)単純なる二重露光。天便面とか、幻光と
 かが画面中に隙隙として現はれ、實物の
 ものと異なる色としてそのまゝ消えてしま
 ぬ。露光機はそれである。それは一重露光
 の場面を撮影した後で、露光機中心天便面
 は幻光の色を録する(て、円一アムの
 面を個所(撮影する)の面である。よつら
 の非現実物は、現実の画面に對して非現
 在に大きもみよれなくも寫すことがある。
 のこのトナリ(露光)の加はるは、この

10 20 半手届

のトナリは、露光するべき三ヶ箇がある。こ
 し、それは後の(四)(五)でも普通の露光の
 ある。
 (イ)非現実物を寫す場所は、現実物の中にも
 ある(まきまの物の色(例へば朝)と反
 対の色(例へば暮)に近き所を捉はら二
 と。
 (ロ)非現実物と、現実の人物との露光の調
 子を念はせむる為、二重露光機は印
 刷のタイムをよく明瞭すること。

(ハ)非現実物の現実物に對して絶えぬ露光
 する際、不愉快な露光を避ける為、特に露光
 機の把平回轉による後動量をかり程に
 注意すること。
 (ニ)Magnifying 装置の二倍りと倍せられ
 るもの、一種である。つまり、露光機の
 二重露光である。例へば、一面面の上は他
 の全然露光した場所の露光と現はれ、それ
 が、元の画面からすれ行くに露光し、鏡に
 映りして行つて、前に露光機画面の入

10 20 半手届

作り加行せぬとソコ橋をトウリてある。
 此の方面はボカシ具合はす也。林物を置す
 事。下手は持する。この方面は近頃の外面
 物に余り使用せぬが、日本物にはす也。
 観衆に使用せしむる事。遠見と大寫し
 とのこけり換え等の一寸うまく観衆の
 眼を掴んだものであつても、その他
 には、日本物より感心したトリツクではな
 い。無意味はこの方面を使用するのは考
 へ物である。

一、それと似た場面轉換法に、一場面の上方
 又は下方から、繪巻物を巻き返す様に、
 他の場面を順次セリ下り又はセリ上つて
 行く。全然場面の轉換するといふ様なのが
 ある。これは旧劇のセリ上げに似た効果に與へ
 るもので、適当に利用すれば一寸い、ものが出来るに
 相違ないが、私はまだ不幸にしてこの方法の善用され
 たのを見たことがない。そしてこれは「画」一場面
 と場面との継目に、即ち両場面のシボリ具合に余程注
 意しないと縮尻る。日本物には頻々としてこの縮尻を
 発見する。

10 20 絵巻物

ある。つまり食ひ違ひの二重露出である。例へば一場
 面の上に他の全然異つた場□が朦朧と現はれ、それが、
 先の場面がうすれ行くに従つて段々ハッキリして行つ
 て、遂に全然■場面の入り代りが行はれるといふ様なト
 リツクである。「この方法はボカシ具合に可也技巧を
 要する。下手にやると」この方法は近頃の外國物には
 余り使われぬが、日本物には可也頻繁に使用せられて
 る。遠見と大寫しとのシボリ換えなどは一寸うまく
 観衆心理を掴んだものであるけれども、その他では、
 「これは」余り感心したトリツクではない。無意味に
 この方法を使用するのは考へ物である。

これと似た場面轉換法に、一場面の上方又は下方から、
 繪巻物を巻き返す様に、他の場面が順次セリ下り又は
 セリ■上つて遂に全然場面の轉換するといふ様なのが
 ある。これは旧劇のセリ上げに似た効果を観衆に與へ
 るもので、適当に利用すれば一寸い、ものが出来るに
 相違ないが、私はまだ不幸にしてこの方法の善用され
 たのを見たことがない。そしてこれは「画」一場面
 と場面との継目に、即ち両場面のシボリ具合に余程注
 意しないと縮尻る。日本物には頻々としてこの縮尻を
 発見する。

リ	専らに各種注意をい	て	鑑賞する。曰平
如	には類々としてこの	結果を	発見する。
○	Misotaking witness	(A)の	幻の板に映けら
人	物その他の幻の板に	現象の	場面中のものと
あ	らうと、それかうは	寫眞の	活動を通じて
行く	所を寫眞してある。	或は	その反対に現
望	みの如か幻となつて	消える	のもそれであ
る。	それ(A)の	単重	寫眞を行つた後
す	の中斷が板にうつて	二重	から寫眞寫眞
に	代るのがある。	二重	寫眞を法中最も
傳	用せられるよりう	である。	それは(A)
の	場合の上から注意と	中斷	法の時に上
は	大寫眞師が、うつて	下す	といふ如きに寫眞
に	手く小寫眞が、い	ても	如きである。
○	一人二役。Double role	である。	大分以前
り	うとてあるか(明治四	十年代)	名古屋の
あ	る寫眞師が「ハテナ	寫眞」といふ	ものを発
明	して特許を受けた	ハテナ	寫眞の
註	一枚の寫眞に同一の	人物	を何人でも寫
す	ことの出来る方法で	例へ	ば自分自分

10 20 全写真研究

○ Dissolving views (A)の幻の様に現はれた人物その他が遂に現実の場面中のものとなって、それからは普通の活動を續けて行く様な寫眞である。或はその反対に現実の物が幻となつて消えるのもこれである。これは(A)の単重二重露出を行つた後すぐ中斷方法によつて二重から普通寫眞に代るのである。一(或はその反対)二重露出法中最も屢々使用せられるトリックである。これには(A)の場合に上げた注意と、中斷法の時に上げた注意即ち「極めて下さい」とが共に嚴重に守られなければい、ものが出来ない。

D) 一人二役。double roleである。大分以前のことであるが(明治四十年代)名古屋のある寫眞師が「ハテナ寫眞」といふものを發明して特許を受けたことがある。■それ一は■一枚の寫眞に同一の人物を何人でも寫すことの出来る方法で、例へば自分一分と自分とが局を囲んで烏鶯を闘はして居る所などは難なく出来た。私も二三度寫して貰つたことがある。東京にも先年からこの方法が傳つて、これを看板にしてゐる寫眞屋を見受けることがある。一体活動寫眞の一人二役法の發明が何時頃のことかはハッキリ知らないが、日本にもこの位の發明能力のあることは右の挿話によつても分

とか尾を圓心の寫眞を斷片してある所を
 とは難く出来た。私も二三を寫して愛
 つた二とがある。東京にも芝居から三の
 方角の傳つて、それを看破りしてある寫
 眞を屋敷に見せる二とがある。一體は雪州
 氏の一人二役の姿解か何時頃の二とか
 だんぎり知りなり加、回事もその位の
 説明能力のある二とかは右の體裁にようし
 加減である。

このは(B)の後段に述べた場面をわたり
 えと内程の方角であるか、トルコと一
 の特徴はその方角より先導一人二役と
 りの裏にあるの相かそれと別は下座つ
 たりである。

かつんは巧く行くと可也心ゆくし
 人の影をぬめるものである。それは極く
 最近の知識であるか、雪州の雪州の主
 役となつて寫した様か、それか、それか、
 にはある外に口には極く巧みに出来

10 20 幸手村電

ることだ。方法はやはりシボリの手加減である。

これは(B)「で」の後段に述べた場面シボリ「代」「換
 えと同様の方法であるが、トリックとしての特徴はその
 の方法よりも寧ろ一人二役といふ点にあるのだから態
 と別に申述べる次第である。

ダブルロールは巧く行くと可也ズバラシイ効果を収め
 るものである。これは極く最近の知識であるが、米國
 で雪州氏が主役となつて寫した「桜の光」とかいふ寫
 眞中にあるダブルロールは極めて巧妙に出来て居た。

但しそれは撮影技巧について云ふのであつて、雪州氏
 のダブルロールについては大分不満がある。中にも一
 番関心したのはダブルロールの動作のタイムがカッキ
 リ合つて居た事である。これには何か特別の方法でも
 あるのかと思はれるが、全然實際方面に暗い私には分
 らない。日本では松之助氏がよくこれをやる。画面の
 全「然」「葩」がボヤケて居ることが大分ハンディキャッ
 プになるとはいへ。どうも思はしくない様である。

(A)の場合に云ふべきことで一寸云ひ落したが、単純なる
 二重露出の用途には、雲、火焰、海底等を背影とする寫
 眞の場合がある。雲や焰や海底と、人物との二重寫して
 ある。つまりこれによって人力以上の劇を製作すること

2 既れ。但し、それ程影はついで
 3 ぶつとあつて、香折りの外にロームに
 4 ついては、大角の海がある。中には一番
 5 心したすばゆいロームの影のタイム
 6 がある。今、これとひある。それには
 7 何か特別の方向にもあるのかと思はれる
 8 か、全然雲霧の面に暗い影はついで
 9 日本では、陰王助のやくざをやさる。画
 10 面の金、おみやげの多きことめ大方に
 11 デイヤラにするとはいへ。どうも思は
 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

10 26 金王屋製

が出来「一」訳である。これらにはタイムの正確を要し
 ないから比較的楽にいゝものが出る。危険な爆発「一」
 劇などもこれで安全に寫すことが出来る。尚ほ、これら
 のトリックに使用する為の後廻しカメラといふものも発
 明されて居る。
 一体トリックを眞面目な活動寫眞劇に應用する機会はさ
 して頻繁なものではない。却つてトリックの應用はある
 場合寫眞劇を幼■稚に見せるものである。即ち、寫眞劇
 に対するトリックの地位は非常に重大であると同じ程度
 に頻出を嫌ふものと云はねばならぬ。が中■でも、この
 二重露出は最も應用の機会が多く且つ効果も著しいもの
 である。これを適當に發達させて行くことは斯業者の重
 大なる務だと思ふ。
 前にも云つた、ロバート、ポールは英國に於ては第一に
 トリック寫眞を試みた功労家であるが、その最初のトリッ
 ク寫眞「The magic sword」一の技巧「一」は殆ど凡て二重
 焼付けによるトリックだった由である。
 (2) 一定の間隔を置いてフィルムを切断する方法。前に述べ
 た中断撮影法による代りに、撮影後のフィルムから一定
 の間隔を置いて、或は一つ置き、或は二つ置きといふ様
 に画面を切り取つて残つた分を継ぎ合せ、それから複製

夕に使用する爲に後回しにワメウといふもの
 も發明し小しきもの。
 一、特トムクを厚面目に次動管裏側に應用す
 る機會は、一、頻りにするものではない。却つ
 てトムクの特用は、その完全管裏側に幼稚維
 は、見せるものでも、(即ち、高層物は、対す
 るトムク)の地位は、非常に大であるといひ
 程、更に彼等を嫌ふものといふは、何れも、
 如中、此も、この二重窓は、最も特用の機會
 を、よく、且つ、必要とするものである。これ
 を、通常に、製造させて、行くことは、新書者の重
 大なる、難い、事である。
 前にも、言つた、に、ハート、ホーン、は、第四の
 種、は、第一、に、トムク、を、造る、に、功、を、求
 め、る、が、その、最初の、トムク、を、造る、に、
 必要、な、材料、を、凡、し、二、重、窓、に、用、ひ、ら、る、ト、
 して、知、つ、て、い、る、事、である。
 ②、一、重、の、間、隔、を、造、り、し、て、ハ、ル、キ、を、切、断、す、る、方、法、
 前、に、述、べ、た、中、断、機、能、に、あ、る、代、り、に、
 後の、ハ、ル、キ、か、ら、一、重、の、間、隔、を、造、り、し、て、
 14 30 学生用紙

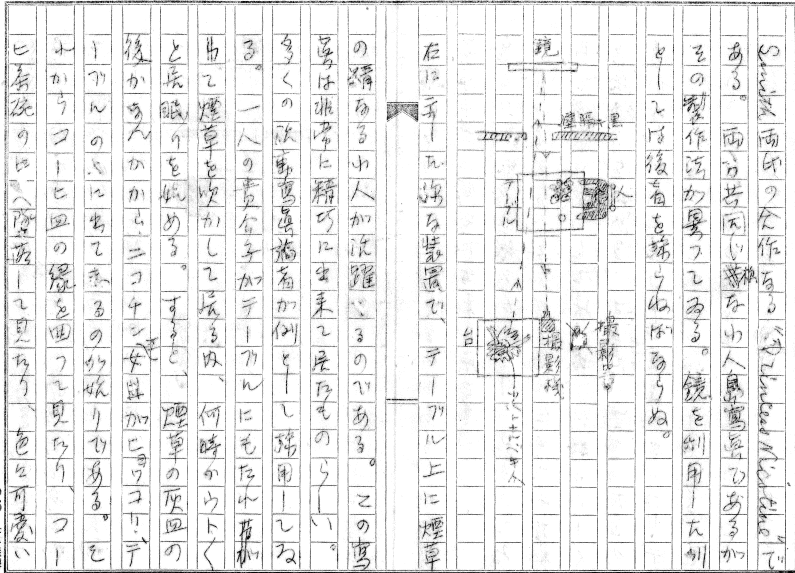
するとといった方法である。この方法による時は速度を正
 確に均等ならしめる利益があるけれども、複製を沢山作
 らない場合には時間と材料の損失である。

(3) 雨、電、これは極めて幼稚な方法で、却つてその幼稚さ
 がグロテスク美を齎す位のものである。雨といふのは出来
 上ったフィルム面に、先の尖つたもので無暗に傷をつけ
 てそれを暴雨に見せる仕掛けである。暴雨と云へば古く
 なったフィルムには多少とも皆雨が降つてゐるものだ。

田舎の子供が地方回りの古い寫眞を見せられて、「ヤー
 雨が降つてる」といったのは一口噺でもなんでもない
 実話である。劇の保存といふこと「を」■活動寫眞の重
 要な特徴をとする為には、何とかも少し耐久力のあるフィ
 ルムが發明されねばならぬ。フィルムの耐火方面に於て
 は Cellulose のフィルムなどが出来てゐる由だから、この方
 面にも何とか改良「法」がないものか。

電即ち稲光の方は瞬間的に現はせば足る物だから「フィ
 ルム」幾十「面」[枚]「毎」に一面位差加へればよい。こ
 れは無地のフィルムに赤い色を塗つたのや「雨」[前]
 と同様の方法で久字形の傷をつけるのや色々行はれた。
 勿論感心したものではない。日本在来の影「二画」■寫
 眞「幻燈」にある一種の悽味に似た感じで、あるシヨック

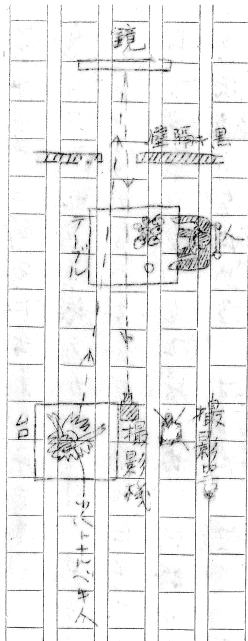
出来た「西廂記」に「観音」の像を刻した。観音に
 彫られたものは、彫刻の他の凡ての出来たと同じく、
 彫作費の差から来たものだから、堂々とした
 彫作費には、彫刻の彫り手が、彫作費を費
 した。彫り手が彫るまい。
 (四)撮影機以外の装置に關するもの。
 これに種々雑多の方法がある。だが、
 居る様である。ひどいのは殿中奥深「く」き場面に於て、
 烈風が役者の衣「装」裳や小道具を吹き捲つて居るの
 こともある。此の間出来た「西廂記」には輸出向丈けあつ
 て流石に電「光」光が到る処利用してあつた様だ。こ
 のことも、「日本」の「活影」他の凡ての欠点と同じく、
 製作費の点から来てゐるのだから、營業的製作者には或
 程度までハンディキャップを興へて論じなければなるま
 い。
 (四)撮影機以外の装置に關するもの。
 これは種々雑多の方法がある。だが、従来行はれたもの、
 内重なのを列べて見る。
 (1)鏡の利用。鏡そのものが一種魔物の様な性質を持つて居
 るのだから、これによるトリックは色々ある筈だ。手品



10 20 宇手原 敬

には鏡を用いた色々のトリックがあるが、あれは凡て活動寫眞にも應用出来る。が、それらの一々については省いて、茲には鏡を利用した魔術寫眞の代表的な一つについて述べる。

昔トリック全盛の時「一代」に出来た魔術寫眞の粹とも称すべきものがある。それは一つは Gaumont 会社作の "The little milliner's dream" で、一つはアメリカの Stuart Blackton, Albert Smith 両氏の合作なる "Princess Nicotine" である。両方共同「共」様な小人島寫眞であるが、その製作法が異つてゐる。鏡を利用した例としては後者を採らねばならぬ。

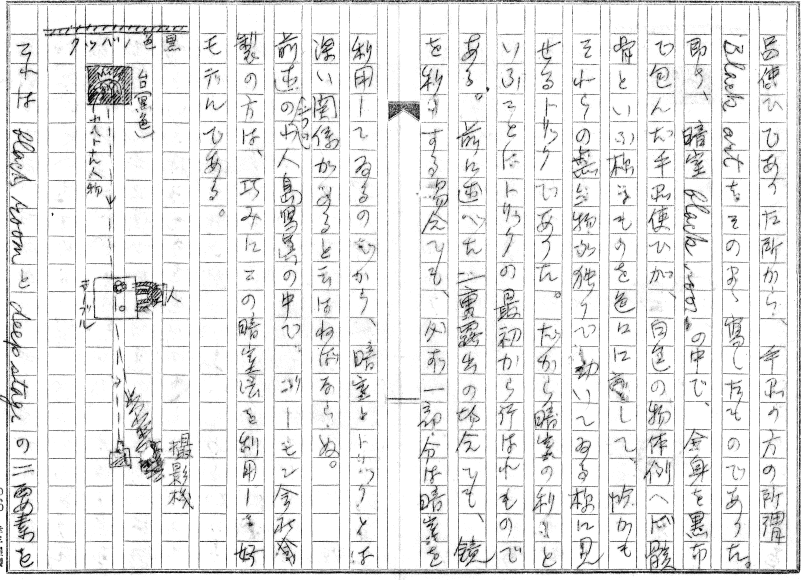


右に示した様な装置で、テーブル上に煙草の精なる小人が活躍するのである。この寫眞は非常に精巧に出来て居たものらしい。多くの活動寫眞論者が例として採用して

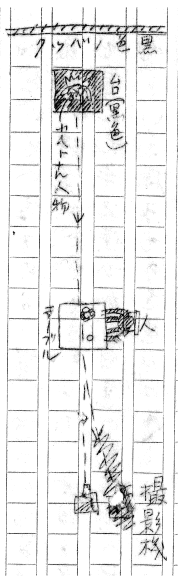
蘇菓をやる。その中で小人の大寫し加あり
 加、その子麴魚にニコチン王女あり後有る
 寫すのひ、その場面に出る来る物道具は凡
 二張りてかゝる。かの作物である。コーヒ
 茶碗も花生生けも、その花生けの花も、
 月に人間の幾倍と、ひひ襟を大きくて持つて
 みる。王女が茶碗煙草をひもつてはする所
 自のほ身味加ある。こゝろひひ場面の出るのひ、
 には又例の鏡利用のトリック場面があるのひ、
 鏡は巧みに欺かせるひ、いゝ氣持ちには
 ある。私にこの種を寫すを見し忘るひこそと
 を不幸に思ふ。
 鏡の利用と云へば、トリックをひらきか、書
 道の人情寫するのひに巧みに應用せしめ、
 るのを見せるべき加ある。例へば、鏡を見ればかす
 かにある人影と云へば、場面の懐味を増すの
 筆は、そのひである。作者、撮影監督等は鏡と
 ひひそのひを大きく研究して、そのひ加ある。
 ②暗室の利用。フラスコに入れたる小人の寫
 の秘祖 *Metzger*。加最初を試みれば、所人が手

1026 半手原

る。一人の貴公子がテーブルにもたれ「ながら」て煙
 草を吹かして居る内、何時かウト〜と居眠りを始める。
 すると、煙草の灰皿の後かなんかからニコチン「王」女
 「王」がヒョッコリ、テーブルの上に出て来るのが始り
 である。それからコーヒ皿の縁を回って見たり、コーヒ
 茶碗の中へ墜落して見たり、色々可愛い藝當をやる。そ
 の中で小人の大寫しがあるが、これは普通にニコチン王
 女なる役者を寫すので、その場面に出て来る小道具は凡
 て張りこかなん「な」かの作物である。コーヒ茶碗でも、
 花生けでも、その花生けの花でも、凡て人間の幾倍とい
 ふ様な大きさを持つてゐる。王女が■等身大の一巻煙
 草をおもちゃにする所などは興味がある。こゝろいふ場面
 の直ぐ後に又例の鏡利用のトリック場面が出るので、観
 衆は巧みに欺かれて了ひ、いゝ氣持ちになる。私はこの
 様な寫眞を見て居ないことを不幸に思ふ。
 鏡の利用と云へば、トリックではないが、普通の人情寫
 眞などに巧みに應用せられてゐるのを見ることがある。
 例へば「直接その人を出さず」姿見にかすかに寫る「そ
 の一人」の影を以て、場面の懐味を増すの等はこれだ
 ある。作者、撮影監督等は鏡といふものをよく研究して
 る必要がある。



(2) 暗室の利用。フランスに於けるトリック寫眞の始祖 Mages が最初の試みは、同人が手品使ひであつた所から、手品の方の所謂Black actをそのまゝ、寫したものであつた。即ち、暗室Black roomの中で、全身を黒布で包んだ手品使ひが、白色の物体例へば骸骨といふ様なものを色々に動して、恰かもそれらの無生物が独りで動いてゐる様に見えるトリックであつた。だから暗室の利用といふことはトリックの最初から行はれものである。前に述べた二重露出の場合でも、鏡を利用する場合でも、必ず一部分は暗室を利用してゐるのだから、暗室トリックとは深い關係があると云はねばならぬ。



これはblack roomとdeep stageの二要素を巧みに應用したもので、例へば月が何等の背景を持たぬ為、梢などにかゝつた時、僅かに皿位の多きさしに見えな

巧みに應用せしむるに、例へば、月か何某の持
 葉を括下ぬ爲、柄などにはかゝつた時、僅か
 に口徑の多きさらし、切見えまいといふ状の
 背景の距離の距離の錯覚を利用したるもの
 である。
 一、体小人寫眞の製法には、以上述べて來
 た如く、二重露出法、二重露出法と鏡
 及び暗室の妙用と、三重加算の法である。お
 ーソンの壇中の鬼と、このいつれか
 によつて、背景にあるであらう。
 (3)代用品の使用。これは最も應用の余地が
 広い。六、七の書、例へば、例へば、例へば、
 中道具も多くは代用品の應用あり得る。
 一、更らに、人物だつて、ナポレオンなら
 しのり、ローマのローマのローマのローマの
 フレンド、ローマのローマのローマのローマの
 風には、ローマのローマのローマのローマの
 洋着しいもの、二三を上げると、ローマの
 其の一つは、沈没の場面、オモチャの船を水溜りに
 衝突する場面、オモチャの船を水溜りに

10 20 水手船

といふ様な背景なき場合の距離の錯覚を利用したもの
 である。

一体小人寫眞の製法には、以上述べて來た処によつて
 分る様に、二重露出法と鏡及暗室の利用との三途があ
 る訳である。ホーソンの「壇中の鬼」なども、このいづ
 れかによつて寫眞になるであらう。

(3)代用品の使用。これは最も應用の余地が広い。広い意味
 で云へば寫眞劇に使ふ大道具小道具も多くは代用品の使
 用なのである。更らに、人物だつて、ナポレオンならナ
 ポレオン、シーザーならシーザーを役者によつて代「用」
 一「理」せしむるに過ぎない訳だ。こゝにいふ風に云ひ出し
 たら、限りが無いから茲では著しいもの二三を上げるに
 止めて置く。

その一つは汽車の衝突に使ふトリックである。衝突の場
 面丈け遠見にして、オモチャの汽車を用ゐる。その直ぐ前
 後には本物の汽車を使ふ。衝突の後の場面、汽車の毀れ
 た残骸を見せられるので見物は一寸欺かれるのである。
 その二つは、海戦に於ける「運」「軍」艦や商船の沈没
 である。これも沈没の場面丈けオモチャの船を水溜りに
 浮べて欺く。勿論背景其他オモチャの船に比較しておか
 しくはない様に装置するのである。前の汽車の場合にはさし

車を用ゐ。その直に前後には本物の汽車を
 使ふ。衝突の後の場面は沈没の熱した汽船
 を見せようとする見物は一寸欺かれたので
 ある。
 その三つは、海戦に程ける軍艦や汽船の沈
 没である。それも沈没の場面だけオモチャ
 の船を沈没り上浮へて欺く。かゝる背景其他
 オモチャの船に比較してあはしくない場には
 沈没するのがある。前の汽車の場面は少し
 ちあつちくもあるが、船の場面ではどう
 しても免れ難い一つの欠点がある。それは
 水溜りの波か海の波の代理を替へるに不
 適当かどりの山と云ふ。沈没した船はま
 ありかり、沈没する時々の様子をやが
 ち波紋が生じては、おんな馬鹿な見物かつ
 ち欺かぬ所はない。
 その三つは、それも純粋のトリックとは云へ
 ぬが、陸戦の場面とか、ベースボールマッ
 ちとか、本物の汽車を衝突させたり、本物
 の汽船を沈没させたりすることがはやる。それ
 から、此間の「ホームラン」なども「熱球」と
 は違って本物らしい欺く方が多い。後者は
 本物の汽船の沈没した見物

10 20 幸子出陣

ておかしくもないが、船の場合では、どうしても免れ難
 い一つの欠点がある。それは水溜りの波が□海の波の代
 理を務めるに不適當だといふことである。沈没した船の
 まわりから、恰度一お池に一石を放った時の様一な一ゆ
 るやかな波紋が生じては、どんな馬鹿な見物だつて欺か
 れはしない。
 その三つは、これは純粋のトリックとは云へぬが、陸戦
 だとか、ベースボールマッちだとか「を、」の本物を、
 芝居の間に挿入して見物を欺く方法である。後者は最近
 の、日本製としては一寸上出来の「熱球」といふ寫眞に
 應用されてゐるが、肝腎の勝負の時に一人の見物も居な
 いガランとした野原を見せたりしたのは不手際である。
 近頃、貴婦人社会と同じ様に、活動界に於ても、贅沢の
 為の贅沢といふ様な傾向がないでもない。金がか、つて
 居ると云ふことを以て藝術味の不足を補はうとする様な
 厭やな傾向がないでもない。
 米國あたりでは、これらのトリックを應用する様なケチ
 なことを排して、本物の汽車を衝突一突一させたり、本物
 の汽船を沈没させたりすることがはやる。それから、此
 間の「ホームラン」なども「熱球」とは違って本物らし

製としては一上出来の「地球」といふ點は
 應用されしるも加、形質の陽炎の響に一人
 の見物も居ないかうと一と影原を呈せ
 けし下りは不在隆である。
 近頃、寫眞人と同じ様は、淡影界に於
 ては、着込の爲り着込といふ様は如何か
 いひも無い。金加か、つて居ると言ふこと
 を以て藝術味の不足を補はうとすも様を厭
 ゆる物向かいでも無い。
 此の如きものは、それらのところを應用す
 る様を企てることを排して、本物の汽車を
 描きせしめ、本物の汽船を映はせたりし
 ることか、作らる。それか、試問のちい
 うこと、それと、それと、それと、それと、
 こそ、いふことか、それと、それと、それと、
 有る、それと、それと、それと、それと、
 (4) 線の利用。操りである。器物が自りの形
 に入り居るものは、中断法にある外、操り人形
 式の方格で撮影し、後でその線そのものの現
 在の所を消す方が好ましい。それである。

10 20 半手屋

では逆も藝術は出来ないことになる。

(4) 線の利用。操りである。器物が自りで動くトリックなどに、中断法による外、操り人形式の方法で撮影して、後でその線などの現はれて居る所を消す方法がある。それである。大したものではない。

(5) 溶解寫眞。Percy Smithといふ人が「The dissolution of the government」といふ寫眞を作ったことがある。私が子供の時分見たのに夫れではないかと思はれるのがあった。色々の人の顔が現はれて、それが段々イビツの形になつて来て、或は眉と目とが合して太い線になつたり、耳がくづれて喉の辺にたれて来たりして、遂に顔全体が溶けて了ふといふ様な寫眞であつた。

これは寫眞の乾板の撮影面を溶解させ「る」ながら、フィルムにとるものと想像せられる。これも劇の見地からすれば大したものではない。

(6) 月、その他。これはフィルムに關係なく、スクリーンの後方に、恰度「の」日本の芝居に於けると同様の仕掛けをして、又は別「の」に幻燈機械を用意することによつて、実際の映画面には出て居ない月を、出て居る様に見える方法である。二三度見たことがある。感心したものではない。

る。大ー凡々のものはある。

(5) 港解書等、Morley Sumner という人が *Artist's Conception of the Government* という写真集を
 作りたことがある。新加坡の時分見本の
 に天竺の存在の如く書かれているのがある。
 色々の人の顔の現はれて、それか紋タイヒ
 ツの形になつて来て、或は肩と目とが今し
 て太い線になつたり、耳かくツレて喉の辺
 に厚かこまらうして、或は顔全体が溶けし
 る山とツレの根を寫眞であつた。

これは高田の露の撮影面を溶解させたもの
 から、その山とともものと想像せよ。

それと劇の思地からすれば、大したものであ
 り。

(6) 月、その他。それはその山に關係なく、ス
 クリーンの後方には、或る面の星は石
 げると肉體の化機を以て、又は別創的機
 機機を用意するうにはあつて、實際の映画
 面には出て来るい月を、或は星の影に見せ
 るが所である。二三の星の影と加ふる。

10 26 幸手日記

心一凡々のものはある。

スクリーンの細工をするに於ては、こうい
 うのもあつた。時分見本 ^{Artist's Conception} スクリーンの背後から
 ある星線を以て、画面の白い部分を一段
 芝居せしめ、或る星線に於ける点である。
 以上を以て大伴の言はんとする所を語つた。
 大伴の言はんとする所を語つた。
 トリックを輕蔑して居る。それは撮影機上の
 白紙主義から語つてあるといひ、或はトル
 クはトルクとして直ちにその方向である。

山。岩崎湖一個の山も言つて居るが、これは、P
 ゴッホの種廟の如きか、大伴自身の描筆の如
 か、ツレの影を、差しく描くといふものも、或る星
 影の如きである。或る星の影の描筆の如
 きである。

トルクの進歩の如きは、散文詩の方向である。

() おはう

10 26 幸手日記

スクリーンに細工をすることでは、こういふのもあつた。「即ち」「それは」スクリーンの背後からある光線を與へて、画面の白い部分を一層光らせて寫眞を明瞭にする方法である。

以上を以て大体私の云はんとする所を終つた。おしなべて云ふときは、今日の活動寫眞界はトリックを輕蔑して居る。これは撮影技術上の自然主義から始めてあるらしい。然し私はトリックはトリックとして進むべき方向があると■思ふ。谷崎潤一郎氏も云つて居られる様に、アランポーの短篇だとか、「又は」同氏自身の諸作だとかいつた様な、美しく怖ろしいものを寫眞劇に仕組むものには、どうしてもトリックの應用が必要なのである。

(おはり)

トリックの進むべき道は、散文詩の方向である。

江戸川乱歩の資料は、これまでいくつかの本や雑誌で紹介されてきた。

どのようなものがあつたのか、以下にまとめてみた。

『江戸川乱歩推理文庫(57) わが夢と真実』講談社 一九八八年

● 欺瞞系譜

● 探偵小説トリック分類表

『江戸川乱歩推理文庫(59) 奇譚／猿の言葉』講談社 一九八八年

● 奇譚

『江戸川乱歩推理文庫(64) 書簡 対談 座談』講談社 一九八九年

● 江戸川乱歩・井上良夫往復書簡(一部)

● 横溝正史宛書簡

● その他書簡(森下雨村・小酒井不木など) 19通分

『文学』岩波書店 第三卷第六号 二〇〇二年十一月・十二月「写

真劇の優越性につきて」

『江戸川乱歩 誰もが憧れた少年探偵団』河出書房新社 二〇〇

三年「悪魔ヶ岩」

『国文学解釈と鑑賞別冊 江戸川乱歩と大衆の二十世紀』至文堂

二〇〇四年「怪物」

『子不語の夢』乱歩蔵びらき委員会 二〇〇四年 江戸川乱歩・小酒井不木往復書簡

『江戸川乱歩と13の宝石』光文社 二〇〇七年「薔薇夫人」

『横溝正史旧蔵資料』世田谷文学館

二〇〇四年 横溝宛江戸川乱歩書簡(CD+ROM)

書簡は世田谷文学館蔵、立教大学寄託資料には書簡の複写あり

立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター

『大衆文化』

創刊準備号 二〇〇八年三月「二銭銅貨」草稿

第二号 二〇〇九年九月「D坂の殺人事件」草稿

第三号 二〇一〇年四月「人間椅子」草稿

第五号 二〇一一年四月「活動写真のトリックを論ず。」

第六号 二〇一一年九月「映画論」

『センター通信』

創刊号 二〇〇七年一月「二銭銅貨」荒筋

第二号 二〇〇八年七月「中央少年」

第三号 二〇〇九年三月「黄色団」

第四号 二〇一〇年三月「試験騒ぎ」

第五号 二〇一一年三月「一年間の早稲田生活より得たる感想」